

城東区の社会福祉

題字は駒井区社協会長

2003年(平成15年)1月1日

発行所・社会福祉法人 大阪市城東区社会福祉協議会

発行人・駒井信義

編集・広報福祉部会 大阪市城東区中央2丁目11番16号

TEL 6936-1133

38

あけましておめでとうございます



毎月待っていてくださる方がいる限り、ずっと続けたい

音訳(朗読)グループ「コスモス」

毎月、城東区広報紙「ふれあい城東」の音訳テープを制作し、視覚障害者などに配っている音訳(朗読)グループ「コスモス」は、1987年、区役所主催の音訳講習会修了者を中心に発足。メンバーは50代女性を中心とした12名です。

「ふれあい城東」とともに、エッセイや社会批評、料理やクイズなどバラエティに富む楽しい音の情報誌「コスモス便り」を制作しています。これは、「読み物の世界を視覚障害者の方にも楽しんでほしい」と、メンバーが新聞や雑誌から集めた記事や季節の便りを編集したもの。活動は毎月2回で、朗読の練習をして録音に臨みます。「朗読技術をもっと磨き、もっと多くのものを音訳したい」と代表の北川温子さん。間違えれば何度も録音し直しながら完璧に仕上げたテープを、その場でダビングし、心をこめて発送しています。

音訳テープの現在の利用者は、視覚障害者福祉協会を通して登録している30数名。特に高齢になってから視力を失った方にとって、耳から情報が得られるのは大助かり。「ゆっくりした丁寧な語りがわかりやすく、関西なまりが温かくて楽しみ」と大好評で、利用後のテープに感想を録音して返却してくる利用者もいます。テープは区役所や城東区在宅サービスセンター〈ゆうゆう〉にも置いてあります。利用を希望される方は、ボランティアビューローにお気軽にご相談ください。



住民相互のたすけあいを

社会福祉法人 大阪市城東区社会福祉協議会会長
駒井信義

謹んで新春のお慶びを申しあげます。

平素は、当区社会福祉協議会の諸事業に対し、温かいご理解とご協力を賜り、心より感謝申しあげます。

さて、我が国の社会福祉制度は、21世紀にふさわしい利用者本位の考え方で立った質の高い福祉サービスを提供するため、措置制度から利用者自らが福祉サービスを選択する利用制度へと大きく変わりつつあります。

大阪市では、誰もが住み慣れた地域社会で、安心していきいきと暮らせるよう「安全ネット」の一層の充実を図り、人が輝く「生活魅力都市」の実現に向けてさまざまな取り組みが進められています。

当区社会福祉協議会におきましても、従来の事業はもとより校下社会福祉協議会の協力のもと、住民相互のたすけあいを目指した「小地域ネットワーク活動推進事業」、また在宅サービスセンターにおいての「高齢者電話相談事業」や「痴呆性等高齢者サポートサービス事業」など、新規事業にも取り組んでいるところであります。

今後とも、皆様方のますますのご協力、ご支援をお願いいたしますとともに、ご健康とご多幸をお祈りいたしまして新年のご挨拶といたします。



やさしい温もりのある 福祉のまちに

城東区長 高原正典

新年明けましておめでとうございます。皆様方には、ご家族ともどもお健やかに新春をお迎えのことと、心よりお慶び申しあげます。

平素は、市政・区政の各般にわたり、格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼を申しあげます。

近年、あまりにも急速な少子・高齢化、核家族化の進行、女性の社会進出の増大、さらには低経済成長等、社会福祉を取り巻く環境は、支援を必要とする高齢者、障害者、そして次代を担う児童青少年に対して、さまざまな福祉課題を生み出しています。

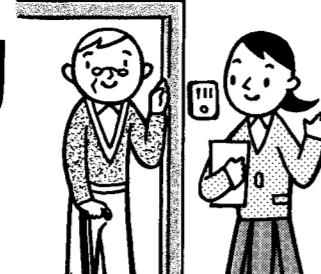
こうした新たな時代の要求に応えるため、社会福祉事業法を大きく改正した社会福祉法が誕生し、以前にも増して社会福祉の充実や活性化、また地域福祉の推進が求められているところでございます。

城東区では、「大阪市高齢者保健福祉計画」に基づいて、「やさしさと温もりのある福祉のまちづくり」を目指して、積極的に取り組んでまいりますので、今後とも、皆様方のご支援、ご協力ををお願い申しあげますとともに、ご健勝とご多幸を祈念いたしまして新年の挨拶といたします。

評議員	監事	常務理事	副会長	役員一同
吉野國登(順不博)	吉行山矢森森森深東橋沼新二永中中提高清嶋塙貞駒小狩奥浦梅岩今伊板石碇高辻宮松藤濱東出墨河奥梅後辻勝吉	吉岡田口内田山下井野本野田井田村橋下田水上見利井林野田田林永堀東谷原原本本地岡川本海出口村井田藤田井嘉一米嘉佐久忠朝隆利頼博智正信英紀誠輝成吉治政信種昌院久栄嘉允一正正三英正好代廣隆武武清次吉夫司明治郎弘春治	吉田昭明至章彌孝雄司夫雄人一久和義良司夫子実規晃二夫美逸典郎一宏種子吉夫司明治郎弘春治	吉田昭明至章彌孝雄司夫雄人一久和義良司夫子実規晃二夫美逸典郎一宏種子吉夫司明治郎弘春治

見守り・声かけ活動

ひとり暮らしのおとしよりを
地域のみんなで見守ってみたい



地域のひとり暮らしのおとしよりが健康でいいのか、どのように生活しているのかを知っておきたいという思いから始まった城東校下社協の見回り活動は、町長や民生委員、役員らが中心となって取り組まれています。

「体調を崩されていないかを確認するとともに、緊急時の連絡先やどの程度の介護が必要な方を把握することも大切な目的です」と城東連合副会長の中橋亮一さん。それは、万が一の入院などの事態に、迅速にご家族などに連絡が



城東校下社協

できるようにと考えられてのこと。「私たちには、何の資格も立場も与えられていませんから、プライバシーにも十分に配慮しなければなりませんし、寄せられる相談のすべてに応えてあげることもできませんが、おとしより同士が『家に来て親切に声をかけてもらったよ』と話されているのを耳にはさめば、こちらも嬉しくなりますね」と城東連合副会長の江草正久さんと鴨野東2-3町会長の安田耕造さん。「家の前の道路のことなど、さまざまな苦情も寄せられて大変」と苦笑されますが、それも気安く訪問してくれる皆さんへの信頼の表れ。行政とのいい橋渡し役にもなっているようです。



今福校下社協

鴨野校下社協

ふれあい喫茶

きょうはだれに会えるかな?
サービスも味も極上の100円モーニング

皆さんも「ウエイトレス体験が楽しい」「季節によってブレンドをかえる研究をしている」とやる気滿々です。

学校が休みの土曜日には、近くに住むおとしよりとお孫さん一家が待ち合わせたり、ご近所連れて散歩がてらやってきたり。「一人でふらっと立ち寄っても知り合いに会えるのが楽しみ」と、地域の皆さんが自由に楽しんでいるようです。

「地域の方の寄付や援助に支えられてのスタートでした」(ネットワーク推進員の村田節子さん談)というオープンから4ヵ月。「100人以上のお客様に対応できるのか不安でしたが、案ずるより産むが易しえすね」と校下社協会長の高田輝雄さんが話されているように、今や大好評のふれあい喫茶は、代表の西野和子さんが「開設準備からみんなで知恵を出し合い、手分けして走り回った甲斐あって、時間途中での完売が心配」とうれしい悲鳴をあげるほどに。メンバーの

